

平成26年度 見附市生徒指導部 活動報告

部長 舘岡 信也

1 本年度研修活動の目的

子どもたちのネットトラブルが増加しているとともに、使用済みスマートフォンやゲーム機での通信、無料 Wi-fi 等によって、問題が低年齢化し始めていることが問題となっている。通信機器についても新しいものが登場し、教師や保護者もどのような通信機器が使われているのか、その知識も不十分な現状がある。そこで、警察で扱った事例や青少年サポートセンターの相談事例を基に、教師や保護者の役割について学ぶ。

2 研修活動の概要

「ネット社会における保護者、教師の役割 ～ネットトラブルの実例に学ぶ～」

○講演1 見附警察書 生活安全課長 安達 一仁 様

<事例>

- ・深夜徘徊や飲酒・喫煙が昨年の倍になっている。保護者が放任している現状がある。
- ・LINEは匿名性が高いため、犯罪行為へつながりやすい。学校裏サイトも依然として存在している。LINEに目が向きがちであるが、学校裏サイトによるいじめも見られる。
- ・ゲーム機での情報のやりとりが増えてきている。
- ・危険ドラッグや覚醒剤が、お香や入浴剤として売られている。
- ・問題の低年齢化。

<保護者・教師の役割>

- ・インターネットやスマートフォンの利用制限をする。
- ・保護者・教師が一緒になって子どもの実態を把握し、指導について共通理解を図る。
- ・保護者にも指導する。

○講演2 長岡青少年サポートセンター 成田 美和 様

<事例>

- ・相談の9割がネットトラブル。機種交換後のスマートフォンを子どもに与え、それを無線LANや無料Wi-fiスポットを使って、インターネットやLINEを行い、トラブルにつながっている。
- ・娘の裸の写真や性行為の写真が勝手に貼り付けられていた。仲間に送信した写真をその仲間が別の仲間に送信したことが原因。
- ・友達をつくるアプリやLINEによるいじめにより学校に行けなくなった。
- ・LINEから離れられず、昼夜逆転する生活が増えている。
- ・学校での指導が70%、保護者からの指導は50%以下。

<保護者・教師の役割>

- ・個人情報を書けない。
- ・著作権や肖像権を侵害しない。
- ・他人のパスワードやIDを使用しない。
- ・ネットで知り合った人に会わない。
- ・困ったら教師や保護者に相談する。

以上の点を保護者と共通理解し、子どもに指導する。

3 まとめ

- ・スマートフォンやインターネットだけでなく、ゲーム機やその他の通信機器についても、その知識について教師と保護者が共通理解する。
- ・保護者の指導が50%以下という実態からも、学校が積極的に情報提供していく必要がある。
- ・授業参観を活用し、ネットトラブルの未然防止について、子どもと保護者が一緒に考える機会も必要である。